

経営概要書

法人名：

株式会社 男鹿水族館

(株5)

1 法人の概要

代表者職氏名	代表取締役 芝田 昭博	所管部課名	観光文化スポーツ部観光戦略課
所在地	男鹿市戸賀塩浜字壺ヶ沢93番地先	設立年月日	平成15年4月16日
電話番号	0185-32-2221	ホームページ	http://www.gao-aqua.jp/
主な出資 (出捐) 者	出資（出捐）者名	出資（出捐）額(千円)	出資（出捐）比率（％）
	秋田県	51,000	51.0%
	男鹿市	31,000	31.0%
	(株)プリンスホテル	10,000	10.0%
	その他4団体	8,000	8.0%
	合計	100,000	100.0%
設立目的	魚、海獣等との触れ合いを通じた学習の機会を提供し、並びに県民の自然保護及び地球環境保全についての理解を深めるとともに、観光レクリエーション活動のための利便の増進を図る。		
事業概要	水族館の運営		
事業に関連する 法令、県計画	なし		

2 令和元年度事業実績

5月は10連休となったゴールデンウィーク、6月から7月は男鹿市北浦にある雲昌寺の紫陽花による影響等から来館者数の増加が見られた。しかし、夏後半の来館者数は、大型ゴールデンウィーク等の反動による出控えの影響等もあり厳しい状況となった。秋冬に入ってから、穏やかな天候が続く降雪量も少なく想定を上回る来館者数となっていたが、2月後半からは新型コロナウイルス感染拡大の影響等により、来館者数の減少が続く厳しい状況となった。

<事業目標>

項 目	区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
有料入館者数(千人)	目標	200	175	170	170
	実績	156	152	158	—
売上高(千円)※業務受託収入除く。	目標	320,100	301,842	311,000	301,882
	実績	259,832	269,815	268,996	—
顧客満足度指数	目標	98	98	98	98
	実績	98	98	98	—

3 組織

①役員数(R2.7.1現在)

(単位:人)

区 分	取締役		監査役		役員報酬
	R1	R2	R1	R2	
常勤	1	1			支給対象者 (R1年度) 2 人
内、県退職者					
内、県職員					平均年齢 69 歳
非常勤	4	4	1	1	
内、県退職者					平均報酬年額 (R1年度) 4,230 千円
内、県職員	1	1			
計	5	5	1	1	
内、県関係者	1	1			

②職員数(R2.4.1現在)

(単位:人)

区 分	R1	R2	正職員
正職員	17	17	
内、県退職者			平均年齢 32.8 歳
出向職員			
内、県職員			平均勤続年数 7.6 年
臨時・嘱託	5	5	
内、県退職者			平均年収 (R1年度) 3,472 千円
計	22	22	
内、県関係者			

③取締役会回数

平成30年度	5	令和元年度	5
--------	---	-------	---

4 財務

①損益計算書

(単位:千円)

区 分	平成30年度	令和元年度
売上高	351,848	355,636
売上原価	75,535	74,256
売上総利益	276,313	281,380
販売費及び一般管理費	273,429	281,651
人件費(売上原価含む)	107,114	114,440
営業利益(損失)	2,884	△ 271
営業外収益	2,362	3,168
営業外費用	6	96
経常利益(損失)	5,240	2,801
特別利益		
特別損失	428	1
法人税、住民税・事業税	1,307	777
当期純利益(損失)	3,505	2,023

②貸借対照表

(単位:千円)

区 分	平成30年度	令和元年度
流動資産	252,513	246,336
固定資産	9,131	10,047
資産計	261,644	256,383
流動負債	41,054	33,770
短期借入金		
固定負債		
長期借入金		
負債計	41,054	33,770
資本金	100,000	100,000
利益剰余金等	120,590	122,613
純資産計	220,590	222,613
負債・純資産計	261,644	256,383

※端数処理の関係で合計が一致しない場合がある。

(単位:千円)

退職給与引当状況	要支給額	引当額	引当率(%)

※中小企業退職共済制度へ加入している。

<主な経営指標>

項 目	算 式	平成30年度	令和元年度	増減※
経常収支比率	経常収益÷経常費用×100	101.5%	100.8%	△ 0.7
流動比率	流動資産÷流動負債×100	615.1%	729.5%	114.4
自己資本比率	純資産計÷負債・純資産計×100	84.3%	86.8%	2.5
有利子負債比率	有利子負債÷純資産計×100			

※端数処理の関係で増減が一致しないことがある。

(単位:千円)

5 県の財政的関与の状況

区 分	平成30年度	令和元年度	支出目的・対象事業概要等
年間支出			
補助金			
委託費			
指定管理料	82,033	80,222	男鹿水族館指定管理料
貸付金			
損失補償			
年度の残高			
その他の財政支出(基金等)			

I 自己評価

1 公共的役割	2 組織体制	3 事業実施	4 財務状況
A 社会教育施設として授業対応や、体験型企画の充実に取り組んでいる。希少生物の保全についても関係自治体と連携しながら対応している。無料送迎により、地域観光への波及についても対応している。	A 人員配置は適正な状況を維持している。今後は他事業所などとの連携によるノウハウの吸収や、専門分野に関する知識習得に特に力を入れている。	C 満足度は高い状況を維持しているが計画を達成することができていない。企画・催事、告知媒体、商品造成の見直しによる新規顧客の獲得が急務と考えている。	A 累積損失もなく、財務状況は安定している。ただ施設、設備などの経年劣化も見られているので、計画的な対応が必要になってくると考えている。

II 所管課評価

1 公共的役割	2 組織体制	3 事業実施	4 財務状況
B 県関与の縮小に位置づけられている法人であるが、地元自治体や企業と連携を図り、男鹿地域の観光振興に寄与するなど、一定の公共的役割を担っている。	A 取締役会は5回開催されており法定回数を満たしている。常勤の役員及び職員がおり体制は整っている。充て職の役員も取締役会に出席している。	B 有料入館者数及び売上高は目標を下回ったが、顧客満足度は高いまま維持することができている。	A 単年度の経常損益が黒字であり、累積損失もないことからA評価とする。

III 外部専門家のコメント

有料入館者数が毎年減少傾向にあったが、当年度は2月後半から新型コロナウイルスの影響があったにもかかわらず、前年度を上回ることができた。売上高はやや増加したものの、人件費を含む販管費の増加もあり、結果的に営業損失を計上することになった（ただし金額は僅少）。経常利益・当期純利益は継続的に黒字を維持している。借入金はなくキャッシュも潤沢にあるため、資金繰りの心配はない。また利益剰余金も十分で、自己資本比率も86.8%と極めて高いため、財務基盤は安定しているといえる。開業2シーズン目を迎えた道の駅おが（ガオジェラ）の利用者数や売上高が思ったほど伸びなかったため、何らかの工夫が必要ではないか。

IV 委員会評価

1 公共的役割	2 組織体制	3 事業実施	4 財務状況
B 三セクの行動計画上は「県が直接民間企業に委託することが可能な事業を主たる事業としている法人」に位置づけられているが、地元の自治体や企業と連携し、観光振興の推進を図るなど、一定の公共的役割を担っている。	A 常勤の役職員がおり、組織体制は整っている。	B 顧客満足度は目標を達成したが、有料入館者数、売上高は8割の水準には達したものの、目標値を下回った。展示企画、営業、情報発信等の一層の強化により、有料入館者数と売上高を向上させていくことが求められる。	A 販管費の増加により、営業損失を計上したが、経常利益は継続的に黒字を維持している。剰余金も潤沢であり、財務基盤は安定している。

V 前年度委員会評価

1 公共的役割	B	2 組織体制	A	3 事業実施	B	4 財務状況	A
---------	---	--------	---	--------	---	--------	---

評価結果を受けて実施した経営健全化に向けた取組（概要）

有料入館者数が減少傾向にあったことを受け、SNSを活用した情報発信等を行った。結果として、前年度比で約5千人の増加となった。
利用者との会話を増やすことで、アンケートでは得られない情報を収集することに心がけている。また、近隣施設や、同業他社の動きを注視し、参考にしながらサービス向上に役立てている。
無料送迎バスについては、好意的な声も多くあり、全世代に販路を拡大するため集客効果を上げるように取り組んでいる。
教育旅行や学校教育についても、自主学習を中心に学習効果の向上を図る。
組織体制は、従業員一人ひとりの持ちうる力を発揮させ、各分野への挑戦にスピード感を持って取り組んでいる。